

## 林業相談

### これから冬に向う庭木の管理手入れ

問 私の家で本州産の樹木と道内産の樹木を植えていますが、例年はほとんど冬囲いをしないためか先端が折れたり枯れたり、花つきがわるいので、どのような管理手入れをして冬を越せたらよいか、また庭にネズミが出ますのであわせて駆除法をお知らせ下さい。

(空知管内 T生)

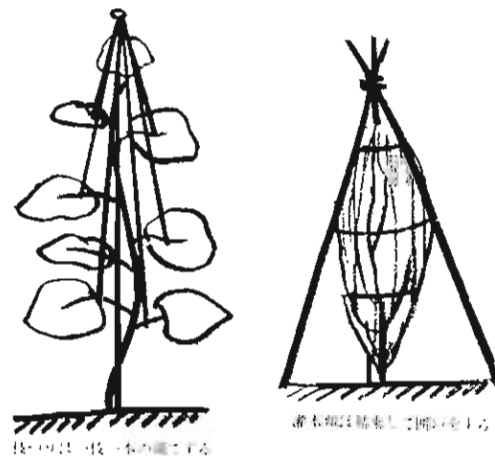
答 あなたの庭にどんな樹種が植えられているかわかりませんので一般的な樹木の取扱いについてのべます。多くの人の経験から本州産の樹木は寒さや雪によわく、道産のものがつよいといわれています。なぜ道産のものがつよいのかといいますと、それは長いあいだきびしい気候に耐えて生き残ったものだからです。本州産のものは北海道の気象条件に十分順応していないため被害を受けやすいのです。それでは被害の原因となっている寒さの害と雪の害の防除法について説明します。

寒さの害は凍害と寒風害に分けられます。

凍害は雪の中に幹や枝が入ってしまうと安全ですが、まだ雪の積らないうちや、雪が融けて樹木が現れてから寒さがやってきますとかわります。空知地方では11月中～下旬と春3月上旬におきることが多いようです。排水をよくしたり、幹や枝に石灰硫黄合剤を塗布すると効果がありますが万全とはいえません。また秋早目にリン酸とか、加里肥料をやると早く寒さに耐える準備をします。囲いぐらいではだめです。したがって当初からなにを植えるかを定めることですが、近所の庭を見ると大体のことは知ることができます。

次に寒風害ですが、これは凍害とことなり囲いをしますとかなり効果があります。囲いもむしろで十分です。ビニールでの囲いは通気性がわるく、むれますので使用しないことです。風のつよい方向に板とか、むしろで防風をするのも一方法です。排水、薬剤、肥料の処理をしますと凍害の防除と合せて効果があります。

雪害については、よく北海道は雪がふり、樹木の枝折は当然おこると思ひこんで放置していますが、保護しますと来る年も美しい樹木の姿を見ることができますからやることです。研究報告によりますと、雪の重さはなんと1㎡当り粉雪で150kg、ざらめ雪で200～250kg、しまり雪で400～500kgといわれていることから考えますと大切な樹木への保護は絶対に必要なことがおわかりいただけると思います。防除としては囲いをするか、枝づりを



することです。枝づりは一本の縄で何本もの枝をつらないことが大切です。花つきのわるいのは寒さのために枝が枯れて、花芽が全部死んでしまうからです。花芽は前の年につくられますから当然です。

樹木の天敵、エゾヤチネズミですが、今までは庭に入って食害をしないとわれていましたが、近年各地で害をうけていることをききます。駆除用タンゴをまきますと防除できますが、タンゴは毒飼ですから近くの支庁に林業改良指導員がいるので指導をうけ正しいやり方で防除することが大事です。どんなによい樹木を植えても管理手入れがわるければその価値がなくなることを忘れないことです。

(樹芸樹木科 中内武五郎)